

「ともに歩む教会のため—交わり、参加、そして宣教—」

世界代表司教会議 第16回通常総会

2021年4月24日、その一般謁見において、シノドス事務局長枢機卿とともに教皇フランシスコが承認した、次期、世界代表司教会議（シノドス）を開催するためのプログラム発表。

1. 「まさに『シノドス性』の歩みとは、神が第三千年期の教会に期待しておられる歩みなのです。ある意味、主がわたしたちに求めておられることは、すべて『シノドス』（ともに歩む）ということばの中にすでに含まれています。信徒と司牧者とローマの司教がともに歩むこと、それをことばでいうのは簡単ですが、実行に移すことは、それほど容易ではありません」（「世界代表司教会議設立50周年記念式典における演説（2015年10月17日）」）。こうした理由から、次回、シノドス通常総会のテーマは「ともに歩む教会のため—交わり、参加、そして宣教—」となる。

2. 実際、シノドス性は教会の本質、その構造的現実を反映しており、こうして福音化に向けて方向付けられている。それは、教会の在り方であり、今日の世界に対する預言的模範でもある。「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である」（一コリント12・12）。同様にアウグスチヌスは、不可分で分かちがたい一体を形成している頭とその部分という「キリスト全体」（『説教』341項参照）について語っている。頭であるキリストとの一致においてのみ、体を形づくる人々の多様性を理解することが可能となり、それが画一性への誘惑を克服しながら教会を豊かにする。これが霊の力における多様性の一致であるからこそ、教会はまさに同じ旅を始めながら、新たな道を切り開くよう求められているのである。

3. シノドスは、教会生活のすべてのレベルにおいて聖霊に耳を傾け合うようにと呼びかける、活力に満ちた結集点である（「世界代表司教会議設立50周年記念式典における演説」参照）。それは単なるイベントではなく、神の民、司教団、そして教皇が、それぞれ本来の役割に応じて相乗効果をもって関わるプロセスでもある（「新枢機卿選出のための枢機卿会議における、教皇に対するマリオ・グレック枢機卿の演説（2020年11月28日）」）。

シノドス開催のためのプログラム

4. その内側に、またそこから、唯一の普遍教会が存在する各地方教会が、諸教会の体でもある全神秘体のために効果的に貢献する（『教会憲章』23項参照）ということを経験すると、シノドスのプロセスの完全性は、各地方教会がそのプロセスに参加してこそ真に存在することができる。地方教会が真に参加するためには、このプロセスに各東方典礼カトリック教会のシノドス、自治権を有する（*sui iuris*）評議会や総会、国、地域、大陸固有の組織を含めた各国司教協議会など、他の教会組織の参加も必要である。

5. このシノドスの旅は、荘厳な開幕式で始められ、三つのフェーズによって構成される。

5.1. シノドス開幕式～2021年10月

このシノドスの旅はバチカンと各地方教会双方で始められる。

5.1.1. バチカンでの、教皇による公式開幕式：2021年10月9～10日

- a. 開幕式と振り返りの時間
- b. 典礼の祈りとミサ

5.1.2. 各地方教会での公式開幕式：2021年10月17日

各教区司教が同じプログラムを祝う。

- a. 開幕式と振り返りの時間
- b. 典礼の祈りとミサ

5.2. 各地方教会と、他の教会現実におけるフェーズ：2021年10月～2022年4月

このフェーズの目的は、神の民と協議し（使徒憲章『エピスコパリス・コムニオ』5,2参照）、それによってシノドスのプロセスが、信者の総体に耳を傾けることを通して実行されることを目的としている。信者の総体こそが、「信仰において誤ることのできない信仰の感覚（*sensus fidei--infallible--in credendo*）」の主体なのである。

以下のプログラムが全員による協議と参加を促す。

■シノドス事務局■

5.2.1. シノドス事務局は、各地方教会での協議のための提案を盛り込んだ質問票と手引書（*Vademecum*）を添付した「準備文書」を送付する。

5.2.2. ローマ教皇庁の各省庁、総長連盟と国際総長連盟（*USG-UISG*）とその他奉獻生活者の会の連盟や連合、国際的な信徒運動体、大学神学部などにも、この質問票と手引書が配布される。

■各地方教会と各国司教協議会、または相当する組織■

5.2.3. 各司教は、シノドスの協議のために、教区の連絡担当者（チーム）を任命する。彼らは、司教協議会の問い合わせ先、連絡先となり、地方教会における協議プロセスの全段階に同伴する（2021年10月まで）。

5.2.4. 各司教協議会（または相当の組織）は、教区の責任者たちや、シノドス事務局との連携の責任を担う連絡担当者を任命する（2021年10月まで）。

■各地方教会■

5.2.5. 地方教会での協議には、使徒憲章『エписコパリス・コムニオ』で想定されているような参加グループが含まれ、協議が現実にも効果的であるために適当と思われるたの手順を除外するものではない（同 6 項参照）。

5.2.6. 各地方教会における神の民との協議は、教区での識別の集大成となる「シノドス前会議」で締めくくられる。

5.2.7. 教区でのフェーズの終了時、各地方教会は、司教協議会自体が決定した日までに、司教協議会へ自らの協議結果を提出する。東方典礼の各教会はそれぞれが対応する組織に結果を提出する。

■司教協議会、または相当の組織■

5.2.8. 識別期間は、（司教協議会）総会に集まった司教たちによって始められる。彼らは、自らが託された教会において聖霊が呼び覚ますものに耳を傾ける。

5.2.9. 識別期間とまとめの草案作成の参加者には、シノドスのプロセスに関する司教協議会の連絡担当者とそのチーム、および、教皇による批准後、シノドス通常総会に参加するよう選出された代表者が含まれる。

5.2.10. このまとめは、各地方教会の協議結果とともに、シノドス事務局に送付される（2022 年 4 月まで）。

■他の提出物■

5.2.11. ローマ教皇庁の各省庁、大学神学部、総長連盟と国際総長連盟（USG-UISG）とその他奉獻生活者の会の連盟や連合、国際的な信徒運動体はまた、シノドス事務局へ各自の協議結果を提供する（2022 年 4 月まで）。

■シノドス事務局■

5.2.12. シノドス事務局は、「討議要綱～その 1」の作成を進める。

5.3. 大陸フェーズ：2022 年 9 月～2023 年 3 月

このフェーズの目的は、「討議要綱～その 1」の文書に関する大陸レベルでの対話を促進し、各大陸独自の文化的文脈における識別を深めることである。

■シノドス事務局■

5.3.1. シノドス事務局は、「討議要綱～その 1」を発行、送付する（2022 年 9 月）。

■各司教協議会連盟■

5.3.2. 各司教協議会連盟はまた、各国司教協議会と、シノドス事務局双方との連絡をとるための連絡担当者を任命する（2022 年 9 月まで）。

5.3.3. 各大陸総会における、シノドス前の識別。居住地の司教とその他神の民の人々の参加基準を確定する。

5.3.4. 各総会は、シノドス事務局に提出する最終文書を作成して終了する（2023年3月）。

■その他の貢献■

5.3.5. 大陸レベルでのシノドス前会議が行われているのと同時に、専門家による国際会議が開催されることが勧められる。彼らはその協議結果をシノドス事務局に送付することができる（2023年3月）

■シノドス事務局■

5.3.6. シノドス事務局は「討議要綱～その2」の作成を進める（2023年6月まで）。

5.4. 普遍教会フェーズ：2023年10月

5.4.1. シノドス事務局は「討議要綱～その2」をシノドス通常総会の参加者に送付する。

5.4.2. シノドス式典は、使徒憲章「エписコパリス・コムニオ」で確定した規則にしたがい、ローマで開催される（2023年10月）。

6. シノドスのプロセスの異なる各フェーズを明確にすることで、教会生活のさまざまなレベル（各地方教会、司教協議会または相当する組織、各司教協議会連盟）において、司教全員を含む神の民の声に耳を傾けることが可能となる。このようにして、シノドスのプロセスへ全員が参加できることが保証され、団体性の実行はシノドス性を実行する中に構成される。このことは、教皇フランシスコが世界代表司教会議設立50周年記念式典で強調したとおりである。

7. 協力する精神のうちに、シノドス事務局は、このシノドスのプロセスのあらゆる瞬間を明確にし、それに同伴するためにオープンである。それはとくに、識別の霊的出来事にほかならない。「それぞれがお互いに耳を傾け、また皆が聖霊に耳を傾けます」（「世界代表司教会議設立50周年記念式典における演説」）。

バチカン、2021年5月21日

シノドス事務局長

マリオ・グレック枢機卿

「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教ー」
 世界代表司教会議 第16回通常総会

地方教会とその他の教会の現実におけるフェーズ
 2021年10月～2022年4月

シノドス事務局	地方教会とその他教会組織	司教協議会（または東方典礼各教会のシノドス）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備文書 ・ 質問票 ・ 協議のための手引書 (2021年9月) 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教区連絡担当者の任命 ・ チームの最終的任命 (2021年10月か、それ以前) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司教協議会のための連絡担当者任命 ・ チームの最終的任命 (2021年10月まで)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教皇庁各省庁との協議 ・ 国際総長連盟や奉献生活者の会総長らとの協議 ・ 信徒団体との協議 ・ 大学との協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神の民との協議の促進と調整 (プロセスは地方教会で設定され、司教協議会内での対話の可能性も) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教区レベルにおける識別のためのシノドス前会議 (神の民との協議後) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ シノドス事務局と司教協議会へ、教区協議のまとめ提出 (締切は、当該司教協議会が決定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 司教協議会での識別：各地方教会が送付した協議結果に関する作業 (司教協議会設立のプロセス)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 司教協議会によるまとめをシノドス事務局へ提出 (2022年4月)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「討議要綱～その1」草案作成 (2022年9月) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常総会への代表者任命

大陸フェーズ
2022年9月～2023年3月

シノドス事務局	司教協議会連盟
・「討議要綱～その1」発表 (2022年9月)	・大陸責任者(問い合わせ先)の任命 ・チーム編成の可能性 (2022年9月まで)
	・各大陸総会での識別 (司教協議会連盟による決定プロセス)
・専門家の国際会議	
	・最終報告の草案作成 (2023年3月まで)
	・シノドス事務局への書類提出 (2023年3月)
・「討議要綱～その2」草案作成 (2023年6月)	

普遍教会フェーズ
2023年10月

・世界代表司教会議 第16回通常総会 (2023年10月)
